



～若き心 集まるところ～ No.9

全ての台中生の『心の笑顔』と『成長』のために

2、3年生の成長と1年生の可能性を感じることができた合唱コンクール

10月29日（水）に行なった合唱コンクールは、学年閉鎖により1年生が参加できず、1年生は、11月18日（火）に、地域の皆様や保護者の皆様ご理解とご協力により、文化会館の小ホールで学年の合唱コンクールを開催することができました。29日は、1年生の部がなくなったことで、開会式後は7組の合奏で始まりました。

トップバッターとしての緊張感もありましたが、会場を温かく包み込む素敵な演奏を聴かせてくれました。開会式での2、3年生の校歌は生徒全員の思いが歌声に変わり、各クラスの合唱を聴く前から感動を覚える瞬間でした。小ホールでの1年生だけの校歌も、始まる前に学年主任の越地先生から「日本一の校歌を聴かせてください」の言葉を受け、本当に素晴らしい校歌を聴かせてもらい、この2、3年生と1年生の校歌を合わせたら、「日本一の校歌」に少し近づくような期待が膨らみました。



3学年とも、各クラスの合唱の完成に向けて、長い練習期間でのそれぞれのドラマがあったと思います。最優秀、優秀を受賞するのは各1クラスですが、どのクラスも一人一人の想いが一つになり、素晴らしいハーモニーを会場に響き渡らせることができました。来年度、1年生は先輩として、初めての大ホールでの合唱へ、2年生は最上級生としての最後の合唱へ、そして3年生は卒業式での3年間共に過ごした仲間との最後の合唱へ向けて、台中生の可能性を感じることができた2つの合唱コンクールとなりました！

開会式では、次のようなメッセージを生徒たちに送りました。

後期始業式で、「多様性」について少し話しました。皆さんには、性別・年齢・価値観・好き嫌い・経験…全てが同じ人など一人もいません。今日は合唱コンクールなので、声の質や歌うことへの自信、得意不得意なども全員違います。今日一緒にステージに上がる仲間は、お互いに異なることがたくさんありますが、「台中生」であること、同じクラスや同じ学年であること、そして、今日の本番に向けて必死に練習してきたことといった、大切な共通点があります。その大切な共通点で繋がっているさんは、お互いの違いを認め合いながら、同じ目標に向かってきました。色々な違いを乗り越え、大切な共通点で繋がった時、素敵な関係性が生まれ、集団は大きな力を発揮します。今日の合唱コンクールは、上手に歌うという技術だけでなく、各クラスや学年の、これまでの学校生活や練習期間に積み上げてきた互いの「関係性」が素敵なハーモニーに形を変えて、聴いている人たちに届けられると思います。

また、合唱は歌で「想い」を表現するもので、皆さんには「想い」を届けたい相手がいるはずです。その「想い」が歌声やハーモニーとして届いたときに聞いている人に感動を与えます。その相手は、会場で聴いている保護者や先生たちになることもあります。今日は是非、一緒にステージに立っている仲間にお互いの「想い」を届ける気持ちを一番にもって歌ってください。一人一人の「想い」を存分に出し切り、素晴らしい合唱コンクールになることを期待しています。



今年もやります！～台中スポーツフェス2025～

COCOOでもお知らせしましたが、昨年度初めて開催した“台中スポーツフェス”を、今年も12月26日（金）に開催します。多くの保護者や地域の皆様に、普段と違う生徒と教職員の姿を見て、応援していただければと思います！



見つけた！台中生！

I found something nice
about DAICHIU-SEI!!!



今回は「見つけた！卒業生！」です。先日、2年前の卒業生の一人が来校し、校長室で少しだけ話す機会がありました。その生徒は私が着任前に卒業したので、互いに面識はありません。当時の学年の先生に聞くと、その生徒は体調面等、事情もあり、なかなか登校できなかったとのことでした。

私が会ったその生徒は、今、自分が決めた進学先の高校で、将来の夢の実現に向けて、いろいろなことにチャレンジし、学習だけでなく、バンド活動もしているといった話をしてくれました。ほんの数分の会話でしたが、初めて会った私に対して自己を輝かせながら話す姿にいろいろと考えさせられる機会になりました。私たち中学校の教員は、目の前の生徒の将来の幸せや夢の実現のために、学校や教員という私たちの立場でできることを全力で行うのが使命です。だからこそ、「登校して、教室で、授業で、行事で生徒一人一人に様々な経験をさせながら成長させたい」という思いは誰もがもっています。しかし、中学校3年間なんて、生徒たちの長い人生の中の「たった3年間」・・・登校できない時期があっても、いろんな失敗を繰り返しても、その全てが一人の長い人生の中で、いつか輝いていくための準備であることを忘れてはいけないと改めて思いました。この卒業生との会話は、私が出会ったたくさんの卒業生たちとの、同窓会やふとした瞬間での再会場面で、「中学生の時にどんなことがあっても、卒業後にそれぞれの道で自分の人生をしっかりと歩いていること」を知るたびに生まれる感情を思い出させてくれました。



そうだ、教室へ行こう！

授業の様子・先生方のこだわりなどを発信します！

授業の様子の
写真が入ります。

今回は3年4組の国語の授業です。松尾芭蕉の俳句について「芭蕉の心情を理解しよう」という目標を提示し、授業が始まりました。常に穏やかな表情で生徒たちに話題をかけ、明確な指示で生徒たちが活動を通して、目標に向かっていく授業でした。前半のペアでの音読から個人で課題に向き合う姿から、先生が丁寧に授業づくりをしていることが窺えました。

授業後、生徒からは「考える時間や共有の時間がたくさんあり、自分にはない意見を知れることで考えが深まる授業なので、勉強になります。」「一つ一つ丁寧に教えてくれて、授業中も話しやすい雰囲気で、わからないところを聞けたり、班員とコミュニケーションがとれたりできるので、楽しい雰囲気がある授業です。」との声を聴くことができました。

先生の授業へのこだわりは・・・？『何かが苦手でも、全ての生徒が1時間の授業の中で輝ける瞬間があるようにしたいと考えて授業をしています。そこで、毎時間、文章を声に出して読む場面、個人で考える場面、ペアやグループで意見や考えを伝えあう場面など、様々な活動を設定するよう心がけています。』

教頭先生のつぶやき・・・

寒さがひま增しに厳しくなってきていますが、生徒の様子を見ていると、ハーフパンツの生徒が多く見られます。私自身中国で3年間過ごした際に、度々中国人の方から厳しい口調で叱られたことがあります。「こんなに寒いのに何でこんなに薄着なんだ！ちゃんと洋服を着させなさい！」「肌が見えているぞ！体を冷やすんじゃない！」【中国語】などなど。他人の子であっても、内臓も含め体温を冷やすことが病気に繋がるという考え方からです。生徒に聞くと「長ジャーはダサいから！」という生徒もいます。「冷えは万病のもと」と言われているように、免疫力の低下や自律神経の乱れなどに繋がるとされています。見た目も大事ですが、健康に過ごすことができるような服装を心がけてほしいものです。